JDDnet福井令和3年度オンラインシンポジウム 発達障害者にたいして 縦断的に関わり続けることの大切さ

- 福井県立大学学術教養センター
- 清水 聡

これまでやってきたこと

- 福井県こども(小児)療育センター「自閉症外来」 1996年~(25年)⇒困りごとよろず相談
- 福井アスペの会(クローバーの会) 2001年~(20年)⇒小集団活動での社会性涵養と居場所作り
- NPO法人はるもにあ 2011年~(10年)⇒居場所作り
- JDDnet福井 2007年~(14年)⇒社会啓発

居場所作り 少年同盟

- 目的:思春期の高機能自閉症児の自尊心を支え、学校生活を続けれられる活力を与える(この時期、対人関係でのトラブル、友人がいない、いじめられる、など彼らを 取り巻く状況は彼らの自尊心を下げていくことが多い)
- 月2回平日の夜にメンバーが集う場所を設定した
- 1週間の中程に活動を設定 :週の後半を乗り切る活力となる
- 活動内容

1回目:いつもの場所に集まって、次回の計画を立てたり、一 緒にゲームをするなど

2回目:主に市中へ出かける(外食、カラオケ、ボーリング、 銭湯など)

少人数のグループを長期間にわ たって継続させること

- 月1度程度でも継続的に同じメンバーで活動 し続けると、「仲間」意識に
- それが、生活サイクルの一部になる
- 本人の相性というより、保護者の相性によって続くか否かが決まる??
- 学校卒業後の余暇活動としても有効 (在学中から準備を促すのもよいかも)

長期間にわたって関わることの

メリット・デメリット

- ・メリットは
 - ・縦断的にその人の発達がわかる
 - ・その人の発達上の経験を踏まえた上での助言 が可能
- デメリットは
 - ・支援者の力量により支援内容が決まる
 - ・その支援者が支援をやめたときに支援が途切れ る

特定の人が関わり続けること

- 人間関係が広がりにくい(人見知りが強い)人たちにとって、長く関わり続けてくれる人は、自分のことをわかってくれて「話しやすい」人間になり、そのような人間の言うことは聞いてくれる。
- その人の過去の体験や家族関係などについて熟知 するようになるので、総合的な見地から最適なア ドバイスをすることができる。現状への助言だけ でなく、将来的なことについても。

発達の相談は過去があって現在が ある、現在を踏まえて将来がある

- きめ細やかな支援を継続するためには、特定の個人がある程度の期間継続して関わり続けるのが理想だが。。。
- 一人の支援者が長期間か変わり続けることは実質不可能
- システムとして途切れなく関わる体制を作ることが必要
- 同じ量、同じ質の支援を引き継いでいけるのか?
- 支援履歴をどうつないでいくか?

保護者の期待と

子どもの現実の受容

- 子どもの(障害)特性を真に受容し、できることできないことを把握した上で、進路や対処方法を選択できる。
- 分かっているようで分かっていなかった。
- 実は納得していなかった。何歳になっても期待 は捨てがたいもの。
- ⇒中・長期的な見通しを具体的に伝えること。

期待を失わせることにもなる。

過去の経験による差異

- ①肯定的体験
- 褒められて育った
- 周りの大人や同級生によくしてもらってきた
- 学校以外に自分受け入れてくれる場所があった
- →周り人からの助言を素直に聞き入れる(よい意味 で「抑えの利く人」がいる)

情緒的に安定しており、少しくらいの困難に も耐えていける

過去の経験による差異

②否定的体験を受け続けてきた

- 叱られてばかりだった
- いじめ・からかいを受けてきた
- 集団にあまり参加したことがなかった
- 友達はほとんどいなかった
- ⇒他者からの助言を受け付けなくなる(「どうせ俺が 悪いと言うのだろう」)

他者と付き合うこと自体に過度の不安、場合にって は恐怖を抱く

被害的な体験は



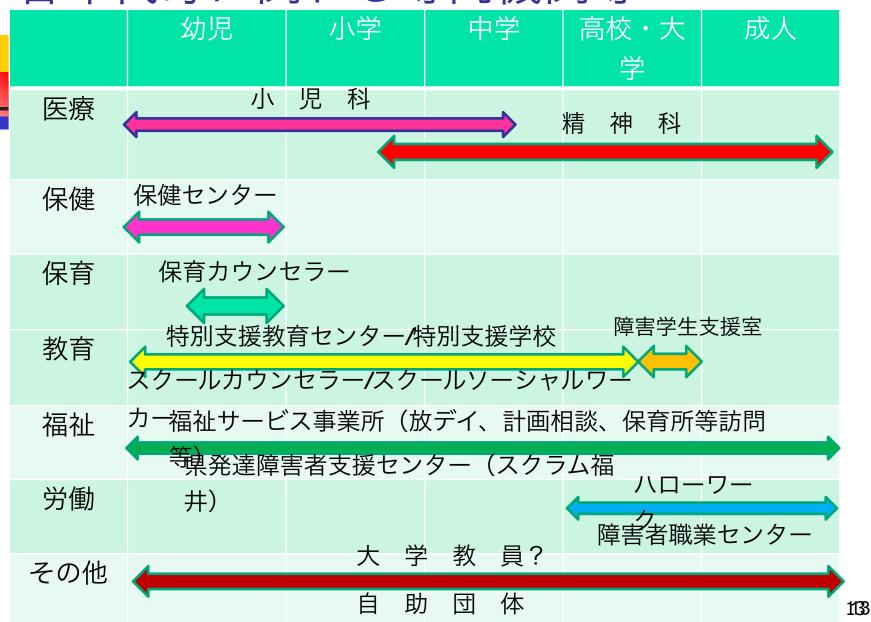
- 被害的な言動が多くなる児童もあり、負の経験 は長く覚えている(いわゆる根に持つタイプ)
- ちょっとしたことが引き金になって過去の負の体験が頭によみがえって、パニックになる(フラッシュバック)こともあり(周囲からはなぜこんな些細なことで、としか理解されない)

過去の経験による差異



- 何となくうまく過ごすことができてきた。
- 自分でできることが増えていかないま ま成人した。
- ⇒保護的な環境から出たときに困ること が続出!

各年代毎に関わる専門機関等



各発達段階での「課題」

- 幼児期:基本的生活習慣の確立、集団嫌いにな らないこと
- ・ 学童期:基礎的学力の保証、基本的な対人ルールの理解、いじめ・不登校への対処
- 思春期:自尊心を下げないこと、より複雑な対 人ルールの理解、二次障害への対応
- 青年期:自己理解と就業に向けた現実認識
- 成人期:安定就労と安定した日常生活の維持

支援の狭間に埋もれてしまう人た



- 不登校・ひきこもり状態のまま義務教育 が終了
- 就職活動に失敗して、あるいは一旦就職 したものの離職して、その後求職→早期 離職→求職を繰り返すうちに引きこもり がちに

移行支援による継続的な支援体制 を作るために

- 医療機関の転院にともなう、心理・福祉 面での相談者の移行
- 発達障害支援は、医療モデルから社会・ 生活モデルへ(医療的支援の占める割合は 減ってきて、生活面での支援が重要になる)

継続支援・移行支援で必要なこと



- 一貫した方針で支援を続けていくこと
- 細かいが重要なエピソードを漏らさず伝えていくこと(トラウマ的体験、こだわり、感覚の特性、相性の良い人良くない人、など)



- 大学進学まで?
- 就労まで?
- 安定就労が継続できるまで?
- 一人暮らしが可能になるまで?